

発行 福山市立箕島小学校PTA本部  
2013年(平成25年)3月12日

「ぷらすワン」はPTA情報から  
みなさまあつとひとりの静寂を  
お届けします。

## 特集 夢に向かってはばたく子ども達へ!

会長のつがやき

あいさつの意味を  
深く知るべし、  
夢を育てるチャンスに!

「おはようございます!」五・六年生の落ち着きと少し自信が顔をのぞかせる声、一〜四年生の無邪気な声が学校で、通学路で、集合場所、地域ボランティアの方々、先生、保護者との間で響き合う。地域・PTA合同のあいさつ運動の一場面です。本年度PTAではあいさつ運動を新たな取り組みとして行いました。はじめは大人の集団にとまどう姿が見られましたが二学期には元気にあいさつをしてくれる児童が多くなりました。多くの方々の地道な取り組みがこのように実を結んでいます。そして、私たちは参加することで子ども達の成長する姿に出会うことが出来たのです。

「現代社会においては「コミュニケーション能力が求められる」とよく耳にします。「コミュニケーションにおいて何が大切なのか私なりの解釈をしてみました。答えは「存在の共有」です。人は社会の中でその存在を認め合ってはじめて生きていけるいきものだと思っています。シンプルなものとして、



地域の方々と気持ちのよい  
あいさつが響き合っています。

赤ちゃんはその存在や感情を伝えるためにまたは親の存在を確かめるために泣きます。確かめられれば安心します。本能なのです。存在は時として感情を生みます。好みの(+)(-)は人様々ですが、もっとも困るのは関心ゼロです。ゼロが故にむなしの気持ちだけが残ります。だからお互いにあいさつをするのです。「おはよう」「あいがとう」「ごめんね」「はい。いいえ」などの決まった言葉に少しだけ気持ちを顔に乗せて声を出すだけのお互いの存在と気持ちを共有することが出来るのです。そういった輪を家庭の中から広げきつかけにして頂くことこそあいさつ運動だと私たちは考えて取り組んだのです。

自分自身で考えてみましょう。良いことをした時はその存在を誰かに認められたい。恥ずかしいと思えば存在を小さくしたい。周りに人がいなくても行動結果は自分自身の中で感情として存在します。自分自身を含め誰かが認めてくれる事を知り、経験出来れば、それは自分が目指す道を見つけたきつかけになるかもしれません。子ども達が夢を育むためには成果を認められる経験をする事が一

番で、あとは周りの人たちからどのような影響を受けるかが大切だと思います。今回は子ども達の夢を育む親力についてPTA研修会で得た内容を紹介します。子ども達が夢に向かってはばたき、そしてより良い未来を築きつかけとなれば幸いです。

PTA会長 高橋 哲也

### 子どもの頃になりたかった夢って何ですか?

〔問題〕  
子どもが「アイドルになりたい」「プロ野球選手になりたい」「宇宙飛行士になりたい」など突拍子もない夢を口にしました。

あなたは何と答えますか?

- ①ムリムリ、もっと現実を考えた
- ②相当一生懸命頑張らないとムリ
- ③いいね、きつとなれるよ
- ④応援するよ

誰にもきつと、子どもの頃になりたかった職業があるのではないのでしょうか。現実を別にすれば、③のように応援したいですね。子どもの立場からしても、自分の可能性を信じてもらえたと感じ、元気がわいてきます。子どもが夢を抱くときに、イメージだけの情報が先行し夢がいつの間にか消えてしまふ子もいるかもしれません。またその夢が自分の適正でなければ、強く望むことが出来ない現実もあります。夢を目標に持ち続けるためには「情報」と「情熱」が不可欠です。情報により過酷な道があることを知ると情熱が失われる子もいます。

「自己肯定感」と「他者信頼感」を育てれば、あとは自分で伸びる力を信じていきたいものです。

### 親や自分の自己規制が、可能性を閉ざしてしまふ

オリンピック柔道金メダリストの古賀稔彦さんは、『目標を定めるには、欲の気持ち(もっと、努力を...)を持ちチャンスを広げること、自分の欠点を見つめ、認めることからはじまる。努力と実行力で長所を伸ばし、短所を克服する事が自己実現につながる。具体的方法として「柔道ノート」の活用。壁にびつかった時に弱い自分から、強い自分に問いかける。強い自分が冷静に考えて答えを出す→実行する。このプロセスにより問題解決能力を伸ばすことが出来る。天才とか才能はチャレンジや、努力をして初めて自分の可能性が表に出た結果なので、諦めずに挑戦することが大切。』と述べている。

### 効率の良い学習を行い、意欲を高める環境づくり

百マス計算で有名な陰山英男さんは、『効率的な学習方法は一定の速さで繰り返す事が大切。また、睡眠と学力の関係について、八時間程度の睡眠時間が効果的。食については、一週間に七十品目食へることにより学力と体力の向上ができ、早寝・早起き・朝ご飯が大切。更に、テレビの視聴時間が長いほど生活が荒れる傾向を指摘し、テレビ視聴を一時間程度にし、代わりに知能を高める読書を推奨。勉強机を人が集まるリビング

の窓際に置くことにより、安心・安定し勉強をしようと思つようになる。』と、学習効率を上げ、情熱を保つ環境作りの大切さを強調した。

思想が変われば行動が行動が変われば習慣が習慣が変われば人格人柄が変わる。...

モンテカルロ(株)設立者の森田浩市さんは、情熱を保ち、一度きりの人生を明るく元気に生きる方法を①感謝の心を持つこと②不平を言わないこと③手抜きをせず努力すること④素直に人の話を聞き実行すること⑤何事も「チャンス」と思つて徹底努力すること⑥辛いことから逃げないこと⑦人の喜びごと、社会に役立つことをすること⑧良い習慣をつくること⑨あいさつをすること⑩健康のため、良いもの(日本食)を食べること⑪「ありがとう」を沢山言うこと⑫人の見えない所でも良いことをすること⑬ハンカチを持つこと⑭借してもらつた場所はきれいにして返すことだ。』と、述べた。

### 「紹介した研修会テーマ・講師」

- ①「子どもに夢を持たせる事の大切さ」古賀 稔彦さん (柔道家・古賀塾塾長)
- ②「学力は一年で伸びる」陰山 英男さん (立命館大学教育開発推進機構教授)
- ③「中高生の成功哲学」森田 浩市さん (森田塾代表・モンテカルロ(株)相談役)

### 編集後記

PTA役員が参加した研修内容と、会長の想いをお伝えしました。皆さまと共に考えるきっかけとなれば幸いです。福山市立箕島小学校 PTA本部一同